

## 成長の種 —— 「不安定」を通じた「安定」 ——

教授 嶋崎博嗣

7月下旬、嶋崎ゼミナールの学生はH幼稚園のお泊り保育のお手伝いをする。依頼されているお手伝い内容の1つに「流しそうめん」がある。その事前準備を5月下旬の土/日に、自宅前の空き地で行った。

事前準備当日、16:00からそうめん台を作り始めた。17:30には流れるそうめんを試食する予定であった。学生はインターネットで調べた方法（竹の割り方・節の取り方）で、そうめん台を順調に作製していく。いい調子だ。しかし、それを乗せる三脚作りに入ると、なかなか上手くいかない。試食時間が近づいた17:15頃、H幼稚園の先生が息子さん（小1）と一緒に、事前準備の様子を見に来て下さった。「もしよければ、そうめんと一緒に食べましょう！ 私の息子（小6と小3）も食べますので…」と誘っていたからだ。

試食予定の17:30を過ぎた頃、3人の子どもが「まだそうめんしないの？」と尋ねてきた。「そうめん台を乗せる三脚ができてないから、まだだな…」と返答すると、「エ〜ッ！！」という落胆の声が返ってきた。



それから約1時間後、何とか三脚完成。子どもは「流しそうめんができる！！」とばかりにその周辺を走り回る。だがその瞬間、子どもの体が三脚に少し触れ、「バタン！」という音と共に、そうめん台は倒壊。倒れた三脚でそうめん台を立て直そうとするが上手く乗らない。結局、写真1のようにハシゴを利用して流しそうめんを始める。そうめん流しが始まると、子どもは三脚に触れないように気を配りつつも、ニコニコ笑顔で楽しんでいた。

## 写真1 触ると倒壊したそうめん台

写真1の三脚を見ても分かる通り、不安定で心許ないのは一目瞭然。その日の夜の反省会で、H君が「明日、もう一度竹を取りに行きたいのですが…」と私に依頼してきた。三脚を作り直そうと考えているらしい。私は、了解した。

翌朝、三脚を作り直す為の竹をH君と取りに行く。竹林で竹を選択し、鋸で切り、枝を掃い、軽トラに積む。汗がにじむ。帰路の車中でH君がボソッと呟く。「保育のための事前

準備の時間って、すごく大変ですね…。そして、大切ですね…」と。朝早く竹を調達している自分の姿、昨日の失敗で味わった感情、不安定な三脚を気かけながらも嬉々として楽しんでいる子どもの姿など、いろんな思いを錯綜させながら H 君は呟いたのだろうと思う。H 君の実感は、保育者を目指す者として非常に大きな学びであると思う。

数日後、学生は三脚の作り方をしっかりと調べ、再度挑戦を始めた。S さんは、自宅で試作機を作成し、ロープワークの書籍も購入したらしい。学生は頭をつき合わせ、意見交換しながら、三脚作りに没頭（写真 2・3）。前回の事前準備の雰囲気とは全く違う。明らかに見通し感覚を持って、「安定した三脚を作る！！」という雰囲気が漂っていた。完成した三脚は写真 4 の通り。写真 1 とは比べ物にならないくらい安定していた。そして、出来上がった後の学生の表情も安定していた。



写真 2 書籍を参考に…



写真 3 高さはこれくらい？



写真 4 かんせ〜い！

何とかなるだろうと安易な見通しで作り始めたそうめん台。子どもが少し触れただけで倒壊した不安定な三脚。試食時間がズレ込み、子どもからブーイングも出た。少なからず、学生は「もし、これが本番だったら…、保育はどうなるの…？」と考えを巡らせただろう。H 君の呟きや S さんの試作機作成は、事前準備の不安定な三脚による失敗が根っこにある。

三脚の不安定さを安定させたいという気持ちは、豊かな保育時間（お泊り保育）を子どもと共有したいという願いの表れでもある。学生の姿を見ていると、「“不安定”を通して“安定”を学んでいる」ようにも感じる。この学びの過程が、保育者に求められる力量であり、保育者としての成長の種ともなる。

7月下旬のお泊り保育、どんな時間になるのだろうか。どんな時間をつくれるだろうか。それは願いをもって準備した足跡そのものにかかっている。